

リゾートトラスト株式会社 様

月間約20時間の システム運用工数削減に成功! リゾートトラストグループが 「新グループ会計システム」を 選んだ理由とは?



エクシブ有馬離宮

会員制リゾートクラブ「エクシブ」を主力とする会員権事業、ホテルレストラン事業をはじめ、ゴルフ事業、メディカル事業などを展開する“総合リゾート企業グループ”であるリゾートトラスト様。旧システムの老朽化、サポート切れを契機に「ProActive E²」へリプレース。新システム導入の背景と決め手から、導入効果まで、その理由を伺った。

User's Profile



設立:1973年4月
売上高:1,422億49百万円(2016年3月期連結)
従業員数:5,931名(2016年3月末連結)
事業所施設:
本社2ヶ所、支社4ヶ所
リゾートホテル・シティホテル等
国内46ヶ所、ハワイ1ヶ所
ゴルフ場13ヶ所、メディカル8ヶ所
シニアレジデンス14ヶ所
グループ会社:30社

事業内容:
会員権事業、ホテルレストラン事業、ゴルフ事業、
メディカル事業、その他の事業



情報システム部
システム運用課 課長
三津谷 辰博 氏



経理部
経理課 課長
平野 幹晴 氏



経理部
会計事務課 主事
鈴木 利治 氏

導入の背景

旧システムの保守サポート切れを契機に、システムの刷新を決定。
課題の解決に向け、ERPパッケージの検討を開始。

リゾートトラストでは、現状の課題を踏まえ、最新の法制度やシステム稼働環境へ追従でき、企業規模の拡大にも柔軟に対応できる、新システムが必要であると判断し、新しいグループ会計システムの導入検討を開始しました。

- 課題
- 1 多くのカスタマイズを実施しており、バージョンアップが困難
 - 2 システム利用環境の制約により、企業規模の拡大による利用者増へ対応できない
 - 3 支払管理システムをアドオン開発したが、品質面の課題が多く、システム運用負荷が増大

選定のポイント

要件への高い適合率と投資対効果を評価し、新システムを「ProActive E²」に決定。SCSKの信頼度の高さもポイントに。

新システム選定のポイント

- 新システムに求められる要件に対する適合率が、検討システムの中で、最も高かったこと
- 各社製品のTCO※を比較し、最も投資対効果が高いシステムであったこと
- 多拠点で分散入力を行うため、経理の専門知識がなくても、ミス無く入力できるシステムであったこと
- SCSKの業務理解力と提案力が高く、長く付き合っていける、信頼できる企業と判断したこと

※TCO: Total Cost of Ownership (総所有コストのこと)

導入のプロセス

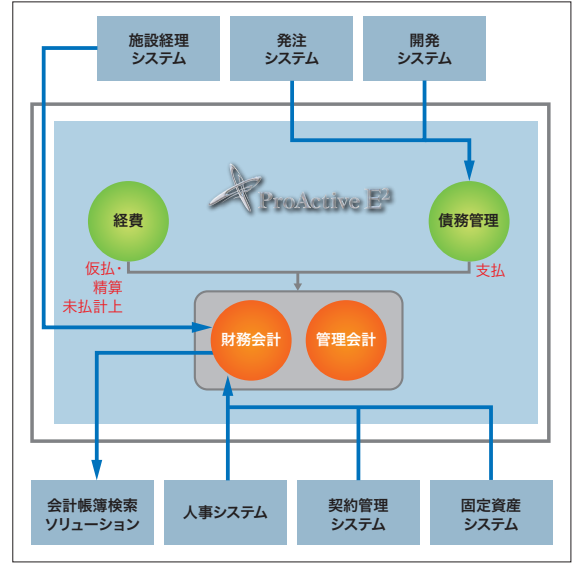
点在する施設・グループ会社のシステム習熟度向上が課題。どのように解決をしたのか?

導入は、専任担当を設けず、プロジェクトメンバー全員が通常業務と兼任で実施。加えて、メンバーの大半がシステム導入の未経験者のため、苦労した点が多かったという。

会計税務課主事の鈴木氏は、「大変だったのは、システム操作に関するトレーニングと自社独自の運用マニュアルの作成だった」という。「特に運用マニュアルは、当初2名の担当で作成していましたが、通常業務との兼ね合いから、予定通りに進まず、途中から4名増員しました」。さらに完成したマニュアルをレビューした結果、「複数人で作成したので、言い回しやレイアウトが少しずつ異なっており、その修正に苦労したことを覚えています」と当時を振り返る。次に操作教育だが、各地に施設・グループ会社が点在し、それぞれにシステム入力担当者がいるため、東京、横浜、名古屋、大阪で計9回、のべ300名の社員を対象とした説明会を開催した。実際に説明会を主催した経理課課長の平野氏は、「一方的な説明だけでなく、演習問題を用意し、実際にシステムに触ってもらうことで、理解度促進を図りました。機能説明はSCSKが担当し、我々は会場内を歩いて回りながら、質問対応や操作に戸惑っている参加者をフォローするという役割分担を行いました」。

しかし最も大変だったのは、本番稼働前の総合テストだったという。各拠点やグループ会社ごとに、テストの進捗とシステムの習熟度を中間確認した結果、総合テストのスケジュールが決算業務と重なっていた影響もあり、大幅な遅れを発生していた拠点があるなど、拠点間のバラつきが大きいことが判明した。テストの進捗もさることながら、習熟度の格差は、本番稼働後の混乱に直結しかねないことから、対応策を検討。

その結果、全ての担当者のシステム習熟度を一定の基準に合わせるため、改めて総合テストを最初から実施することを決定。また、進捗が遅れては意味が無いため、日次で進捗状況の報告を義務付けた。プロジェクトマネージャーを務めたシステム運用課の三津谷氏は「進捗確認を漏れなく行うため、全ての拠点に毎日電話で確認しました」という。細やかなチェックにより、再テストによる目的を見事達成し、無事に本番稼働を迎えた。



▲システム概要図

導入後の評価

安定したシステムによる月間約20時間の運用負荷を軽減。更なる効果の発揮に期待。

本番稼働から5ヶ月を迎え、新システムは効果を発揮しつつあるという。

鈴木氏は「本番稼働当初はシステムに慣れていないこともあり、対応工数が増加しましたが、5ヶ月を経過し、落ち着いてきました。現在では、月次決算も旧システムと同水準で実現できています。今後、習熟度が上がることで更なる効果を発揮すると期待しています」。また平野氏は、「現在、ワークフローを本社の一部でのみ利用していますが、今後は全社へと展開予定です。これにより、承認プロセスが効率化され、より早く、より正確に情報を集約できると期待しています」という。その他、旧システムは支払管理機能がなく、アドオン開発したシステムを利用していたが、拡張性が無く、支払業務の負荷が増大していた。しかしProActiveは支払管理の機能を標準機能で有しており、高い拡張性に加え、会計システムとの連動により、支払業務の効率化と負荷軽減が実現されたという。次にシステム運用面でも効果が出てると三津谷氏はいう。「旧システムは、利用環境面での制約があり、システム利用者の増加に対応できなくなっていました。新システムの稼働により課題が

解決されました。Webアプリケーションであるため、利用者増加時の設定が容易となったことも含め、今後の事業拡大にも余裕を持って対応できるようになり、安心感につながっています」と(三津谷氏)という。また、「システムの品質が高く安定しているため、問い合わせやトラブル対応がほとんど無くなり、月間で約20時間のシステム運用工数が削減されました。その分、空いた時間を他の社内システム運用支援に充てるなど、業務の負荷分散も実現できました」と(三津谷氏)という。

今後について鈴木氏と平野氏は、「ProActiveには、法改正へのタイムリーな対応とユーザーズを踏まえた機能強化を継続し、より使いやすく、永く利用できるシステムになって欲しい」という。また、三津谷氏は、「永く使うには、保守サポートがしっかりしていることが重要です。SCSKには、保守サポートについても、導入時と同様、変わらぬ手厚いサポートをお願いしたい」と、長期にわたり利用できる新しいグループ共通会計システムとしての、ProActiveへの期待は高い。



東京ベイコート倶楽部

導入効果のまとめ

- 高品質で安定したシステムの実現により、システム対応工数が、月間で約20時間が削減できた
- 習熟度の向上により、月次決算の期間が旧システムと同水準となった。今後の習熟度向上により、更なる削減効果が見込める
- 支払管理のシステム導入により、支払業務の負荷軽減が実現

●お問合せ先

SCSK SCSK株式会社

SCSK カスタマーセンター

☎ 0800-500-4000 (無料) 受付時間 / 月～金 9:00～18:00 (祝日、年末年始、当社指定日を除く)

●携帯電話でのお問い合わせTEL:03-6670-2990

ProActiveWebサイト:<http://proactive.jp/> E-mail : proactive@ml.scsk.jp